

# ダンノ恵美

## 活動レポート

夏号

2013年  
7月発行

ご あ い さ つ

みなさま、こんにちは!ダンノ恵美です。年に数回ですが、こうして皆様に「活動レポート」をお届けできる幸せをかみしめております。高槻市は「住んでみて良かった街ランキング(関西圏)」で、2回連続第一位に選ばれました。治安の良さや子育ての環境などに支持が得られたのだと思います。

さて、本年度の当初予算が確定しました。財政状況は年々厳しくなっていますが、そのような中でも「子育てトップランナー都市」を目指して、力強く積極的な施策の展開がますます望まれます。

ダンノは、市民の皆様の声をうかがいながら、一つひとつの施策の具体的推進力となるよう活動してまいります。今後とも、ダンノ恵美に変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### ♥ 高齢者、障がい者施策を拡充

これまで65歳以上の独居高齢者を対象に無料で救急医療情報キットを配布されていましたが、新たに障がい者だけの世帯、日中独居高齢者などへも配布対象が拡大されました。さらに、緊急通報装置の設置についても、利用対象者が同様に拡げられました。

### ♥ 子育て支援を拡充

子育て施策のトップランナー都市へ向けて、妊婦健診費用が平成24年度の69,000円から、平成25年度は120,000円に増額され、全国トップクラスへ引き上げられました。また、保育所の待機児童ゼロを目指し、民間保育所の創設、既存施設の定員増は最も期待される施策の一つとして挙げられます。

### ♥ より良い教育環境を目指して

#### ～小学校全学年に35人学級の導入

これからの高槻市を、そしてこの国の未来を担う児童の育成に向けて、府内初の35人学級が小学校全学年に導入されました。それにより、一人ひとりに丁寧な指導を行い、思考力・判断力・表現力などの向上が期待されます。

また、学校施設内だけでなく地域と連携し、その地域特性を生かした特色づくりなども、各校独自での取り組みとして進められます。教科学習の重要性は言うまでもありませんが、子どもたちが成長していく過程において、忘れてはならないのは社会とのつながりや、地域社会の一員であるという自覚の醸成ではないでしょうか。この「地域と連携した、特色のある学校づくり」は、それぞれの地域環境の中で、保護者や地元の意見を踏まえ、学校経営に関する具体的な重点目標などが設定されます。

### ♥ 高槻市のシンボルとしての公園を

#### ～(仮称)安満遺跡公園

(仮称)安満遺跡公園は、弥生時代の貴重な遺跡を保存・継承し、防災機能を備えた緑豊かな地で市民が集い、憩いの場となる市民共有の公園を目指しています。

この公園整備を機会として、渋滞の著しい府道伏見柳谷高槻線八丁西町交差点から国道171号線野田交差点までの幅員を、15メートルにして渋滞解消などの道路整備を検討しています。また、高垣町JRアンダーのトンネルは通学路に指定されていますが、現状は人と車が混在して通行している非常に危険な状態です。今回の公園整備に伴い、歩行者専用トンネルの実現を要望しています。さらに、集中豪雨などによる家屋への雨水の浸水を防ぐ対策として、雨水貯留施設の建設へ向けた検討が進められています。

整備構想については、今年11月ごろを目標に素案が作成されますが、市民の皆さんの積極的なご意見をお聞かせください。

### ♥ JR高槻駅にホームが増設されます

JR西日本管内では、10番目に利用者の多い「高槻駅」ですが、それだけにより安全性と快適性の向上が求められます。そこで以前から高槻市では、JR西日本にプラットホームの改善を求める要望や市議会の意見書を提出していましたが、このたび新たなホームを整備する協定が締結されました。



高槻市マスコットキャラクター  
はにたん

## ♥ 平成24年第5回(12月)定例会・一般質問「子ども達の遊びと地域の力について」

労働形態の多様化や不安定化が進むなか、家庭のあり方、家族としての連帯感、そして地域社会の中でのナマ身の人間どうしの関係が、近年は希薄になってきているように見受けられます。もちろん、時代の推移とともにその形が変容していくことを止めることはできませんし、その流れを恣意的に変えることもできないでしょう。

ただ、私が昨今の現状を鑑みて危惧しているのは、これからの20年後、30年後の高槻市を、あるいはこの日本をけん引していくことになる、今の子どもたちを取り巻く社会環境とその展望にあります。

住みやすさナンバーワンを目指す高槻市では、学童保育室の増設や保育時間の延長、また小学校35人学級など、さまざまな子育て支援策が大胆に拡充され、まさに喜ぶべき施策の一つ一つが整備されつつあるといえます。それだけに子どもたちを社会の一員として、また社会適応能力のある人格として育む具体的な環境、言い換えますとソフト面での充実が急務であり、総合的なビジョン、戦略を明確にしていく必要があるのではないのでしょうか。

その一つとして、子どもたちの「遊び」について考えたいと思います。

かつては、学校外の自由な時間・空間では、異年齢の子どもたちがともに遊びを発明し、その中でのルールを確立し、年長者は年少者をときには叱り、ときには励ましながら終日遊びに熱中していました。そして、その遊びの中で社会性を学び、規律を身につけ、集団の中で個が自立する仕組みのようなものが、自然にできていたように思われます。

ところが、遊びの場は家の中に移り、集団あるいは仲間から一人遊びへと様変わりしてきています。もちろん、昔のように自由に走り回り、基地づくりなどができる空き地がなくなったことや、道路での遊びが危険な場所になっているという環境的な要因があることは承知しています。ただ、だからといって、仕方がないと手をこまねいていいのでしょうか。

自分で課題を見つけ、学び、考え、判断するという社会人としての最も基本的な資質。そして、行動し他を思いやる豊かな情操を育むために、私たち大人に何ができて、何をしてはいけないのか、そここのところをしっかりと見据えて展望していかないといけないと考えております。

その一つとして、私が最も注目し、期待を寄せているのが「**地域と連携した、特色のある学校づくり**」です。今、子どもたちに仲間と泥んこ遊びをしなさい、ゲーム機を棄てなさいというのは時代錯誤



もいいところでしょう。その時代、その時々に応じた関わりが無理があつては絵に描いた餅でしかありません。現状を十分に活用しながら生きる力を育み、自分たちが生活している環境を最大限に生かし、大人主導ではなく共に参加し、考え、行動するために、地域社会に子どもたち自らが溶け込んだ能動的なムーブメントは起こせないものでしょうか。

商店街や生産地ならその特色を活かした活動を、また、住宅地ならではの地域性、あるいはそれぞれの地域の交流なども企画・実行できると、さまざまな生活活動を肌身で感じられアクティブに学習するチャンスになると思うのですが、皆さまはいかがお考えでしょう。これからの子どもたちを、未来の高槻をさまざまな角度から、いっしょに思い描いてみませんか。ダンノにあなたの声をお寄せください。いっしょにつくっていきましょう。

## ♥ 25年度の役職が決まりました

5月15日から17日の3日間の会期で開かれた5月臨時議会におきまして、本年度における役職が決まりましたので、報告させていただきます。

- ・ 常任委員会；福祉企業委員会(副委員長) ・ 高槻市国民健康保険運営協議会委員
- ・ 特別委員会；史跡整備等特別委員会 ・ 高槻市男女共同参画審議会委員 ・ 議会だより編集委員(副委員長)

気持ちを新たに頑張ります



## ! ダンノ恵美後援会からのお知らせ

- ・ 第3回歌踊まつり、4月29日、GW最中の開催でしたが、皆様のおかげでとても楽しい会となりました。
- ・ 第5回親睦旅行、雪の中、バス4台での移動が大変でしたが、皆で無事帰路につけて、幸せな一日でした。

次回は来年、1月に日帰り旅行・夏ごろに歌踊まつり。また、今年の秋にはランチ会・年明けの新年互礼会をしたいな……と後援会役員一同で検討中です。すべて詳細は未定ですが、議員として3年目、折り返し時点を迎えたダンノ恵美の後援会の確立・拡大を目指します。

皆様、どうぞご支援・ご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。